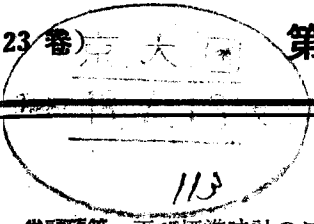


天 界

(第 23 卷) 京大

第 2 6 5 號

昭和18年 第 7 號



本 號 要 目

卷頭隨筆：再び標準時計のこと、その他……………	山 本 一 清	209	
日蝕觀測を終つて (2)……………	木 邊 成 麿	212	
月蝕の豫報計算 (1)……………	熊 切 一 男	217	
金星は地球と双子遊星……………	R. G. エイトケン	222	
觀測より得たる流星輻射點の表(續)〔紀要85續〕……………	小 槇 孝 二 郎	225	
南宋より傳はる天文圖……………	山 本 一 清	230	
觀測部月報：太陽・流星・彗星……………		236	
天 界 問 答 (1件)……………	224	總會の報告……………	216
標準天文用語表 (17)……………	234	表彰狀第9號(中原千秋氏)……………	③
七月の天象……………	④	天界正誤表……………	229
八月の天象……………	②	會 告・公 告……………	221, 229
別ぐみ頁：球面天文學要綱 (2)……………		S. = ウカム (5)	

1943年

八月の天象

Himmelserscheinungen im August, 1943.

日本内地や南洋一帯の島々は海洋の影響を受けて、八月は尙ほ盛夏の暑さであるが、大陸は地面の比熱が小さいため、早くも初秋の爽やかさを感じる。天空も既に秋の兆候が現はれて、日出前の東天には**黄道光**が見え始める。太陽黒点の活動の萎縮と共に、過ぎし今冬の黄道光は光淡く、只、**黄道帯**のみ頗る發達した形であつたが、こんどの秋の黄道光や帯光は如何なる形状を見せるか？

太陽は獅子座を順行中、8日は立秋となり、24日には處女宮に侵入して處暑の季節となる。今月は舊曆と同じ日付け(但し一ヶ月遅れ)となるので七夕祭は7日、盂蘭盆會は15日であつて、記憶に便利である。1日は南洋の**日蝕**で、南インド洋や、濠洲の南では金環蝕が見えるが(天文年鑑第10頁を見られよ)、部分蝕は我が日本の新占領地あたりでも見える筈。但し、内地では何も見えない。しかし、地球物理學的な種々の觀測は行はれ得る。

月は1日が遠地點で新月、9日が上弦、15日が近地點通過、16日が満月、23日が下弦、28日が再び遠地點通過、31日が新月である。

水星は宵の星で、月末29日に極大離角(東へ27°餘)となるが、地平への黄道の傾きが大きいので、低緯度の土地でなければ觀測は不可能だらう。

金星は前月末の31日に極大光輝(-4.2級)となり、その前後は白晝に肉眼で觀察が出来る。その後、13日の停留を経て、急に太陽に近づき、觀望に不便となる。しかし、地球には近いので、望遠鏡で毎日その鋭い三日月形の變化を眺め、視直徑を測つて見るのも興味深からう。

火星は東天で漸次増光中、視直徑は9"に達する。星座は牛座。

木星は、前月30日に太陽と會合につき、まだ觀察は全月不可能。

土星は曉の空に美しい形を表はしてゐる。望遠鏡裡の壯觀であらう。

天王星は牛座のε星とκ星との中間を緩やかに順行中。天文年鑑中の星圖をたよりとして觀られたし。光度は6等級で、双眼鏡で見える。

海王星は秋分點の北隣を順行中、日光の妨げで、觀望不適。

冥王星も觀察は不能。

流星は七月に引き續き良く見える時期で、殊に、見える数の多いことは一年中この月が最も多い。12日前後の幾日間か、午前3時頃ペルセウス座から四方に飛ぶ白色急速の光弾は實に見ごとで、殊に今年は満月以前であるから、月光の妨害は著しくあるまい。

彗星や**新星**の新發見を忘るべからず!!

(注意:「七月の天象」は表紙④にあり)

とも座新星発見者

中原千秋氏



表彰状(寫)

會員 中原千秋君

君ハ、去ル昭和十七年十一月十一日早曉、南天ニ低キ艦座ニ於テ一等級ノ新恒星ヲ発見セリ。之ハ實ニ大正七年ノ鷲座新星以來ノ大光輝星ニシテ、一時天空ノ偉觀タリ、コノ通報ニ接セル學界人ハ賛嘆ヲ禁ゼザリ、発見者ノ得意亦想像スルニ餘リアリキ。

コノ星ハ光輝餘リニ大ナリシタメ、國內國外共ニ數名ノ獨立発見者アリテ、何レモ皆ソノ榮譽ヲ共有スルニ似タリ。然リト雖モ、中原君ノ成功ハ他ガ皆偶然ノ発見タルト同日ニ論ズベキニ非ズ。君ハ曾テ變星ヲ觀測セシ經驗ヲ以テ、昭和十三年以來新星ノ系統的搜索ヲ計畫シ、爾來毎曉毎夕ノ暗空ヲ凝視シ續ケタル結果、今回其ノ輝ヤカシキ成果ヲ得タルモノニシテ、此ノ如キハ世界ヲ舉ゲテ前人未踏ノ記録ヲ作リシモノ、實ニ其ノ努力ト熱心トヲ賞スベキナリ。仍テ本會ハ之ヲ表彰ス。

昭和十八年六月二十七日

東亞天文協會長 正四位勳三等
理學博士 山本一清 印

1943年

七月の天象

Himmelserscheinungen im Juli, 1943.

七月からは、毎年の例により、流星が活躍し始める。或は既に六月末からのキンネケ流星に観測者は注意を集めなければならぬとも言ひ得る。なるべく、観測の計畫や手續きについて、小愼流星課長の指圖に従ふこと。又、報告は忠實に、迅速に課長に届けること、星圖や報告用紙も課長から與へられる。——七月の季節は早や起きに絶好である。夜半過ぎの2時頃から晴夜を見守る心持ちは敵機の來襲を看視するほどの緊張感にも似てゐると言へよう。

太陽は、月初め双子座にあるが、下旬には蟹座に移る。赤緯は幾らか南下するけれど、それでも未だ高い。8日は“小暑”，24日は“大暑”で、地上(北半球)の暑さは愈々本格的となり、切りに出征中の皇軍將士の勞苦を思ふ。

月は2日が新月、11日が上弦、17日が満月、24日が下弦で、翌八月1日には次ぎの新月となる。又5日は軌道上の遠地點を通過し、18日には近地點へやつて來ることも記憶して置いて宜い。

水星は朝早く日出前の東天に姿を見せるが、月末になるに従ひ、だん々太陽に近づくので、この月一帯は觀望には適當とは言へない。

金星は宵の明星として、依然、西の空に君臨してゐる。六月末に極大離角を過ぎたから、望遠鏡の視野中に見える像は漸次に鋭い三日月形となり、同時に、光輝は益々強く、その極大は31日である。

火星は東天に愈々高いが、距離は未だ遠い。

木星は宵の西天で太陽に近づき、肉眼には立派だが、望遠鏡では駄目。

土星は六月中の太陽との會合を過ぎたが、此の七月末頃から東天に美しい形を現はし始める。しかし、望遠鏡の觀察は九月頃まで待つが宜い。

天王星も土星と同様、東天の星ではあるが、觀測不適。

海王星は乙女座で、やゝ西へ傾き過ぎたが、圖を頼りにすれば、尙見える。

冥王星は木星と會合中。

(注意:「八月の天象」は表紙②にあり)

天界 第265號

昭和18年6月28日印刷
昭和18年7月1日發行〔定價(税)金40錢〕合計金43錢
〔特別行爲税相當額3錢〕送料金1錢編輯(兼) 滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513
發行所東亞天文協會 (振替大阪56765)
(代表者山本一清)
日本出版文化協會第2種會員(第220038番)印刷所 京都市上京區上樁木町千本東入
印刷者

眞美印刷所 橋本岩太郎〔電西陣3702〕

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地

日本出版配給株式會社